

ベルクソン『創造的進化』の二元論的生命論の検討

ドゥルーズのベルクソニズムとの比較を通して

野瀬 彰子
(東京大学)

本発表の目的は、『創造的進化』においてベルクソンが提示する生命と物質性の二元論がいかにして構築されているのか、そしてその二元論がいかなる意義をもっているのかを検討することである。

『創造的進化』第3章でベルクソンは、われわれの精神の「緊張 (tension)」(EC 224, 237, 246) とそれに対立する「弛緩 (détente)」(EC 202, 203, 213, etc.) という二つのはたらきの二元論を提示した後、それと対応させるような形で、「生命」(EC 246) とそれと反対方向の「物質性 (la matérialité)」(EC 246) から成る二元論を展開している。だが、「ベルクソンの記述には、心理的記述と客観的対象の記述とがただちに連続しているように読める部分があり、『創造的進化』になると、心理的記述がコスモロジックな実在すべてに段階的説明を欠いたかたちで拡大されるようでもある」(檜垣 2000, 18) と述べられることもあるように、この二元論はいかに構築されているのか未だ解明されていない。

それだけでなく、ベルクソン哲学の二元論的側面が強調されることは、実のところ、多くない。それは、ドゥルーズの哲学と同じ類の哲学として評価される際に、ベルクソン哲学の一元論的側面および多元論的側面が、哲学的に意味のあるものとして認められてきたからである。モンテベロによれば、ベルクソン哲学は、ドゥルーズの哲学とともに、カントにおいて始まる「超越論的哲学」(檜垣 2000, 12, 18, 鈴木 2008, 66) から区別される「もう一つの形而上学 (l'autre métaphysique)」(Montebello 2003, 10, 鈴木 2008, 69) の系譜に属する。超越論的哲学は、経験に先立つものとして、経験の可能性の条件を探究する。それは、主観と客観との根本的区別を前提としており、物自体を認識不可能だと考えさせるに至ったり、哲学のさまざまな問題を解決不可能だと思込ませたりする。その問題とは、例えば、観念論と実在論との対立の根幹にある、われわれの精神がいかにして実在しているものを認識しているのかという問題や、われわれの身体において精神と物質がいかにして結合しているのかという問題である。これに対して、「もう一つの形而上学」の系譜に属する哲学者たちは、主観と客観の一致の経験が存在することを示し、その経験から形而上学を構築していく。ベルクソンの場合は、持続しているものの直観が主観と客観との一致の経験として提示されている。主観と客観の一致の経験において認識されている持続しているものは、人為的で主観的な観念ではなく、実在しているものだと考えられる。そうだとすると、超越論的哲学が主観と客観との区別を前提としたせいで解くことができなかった、われわれの精神による実在の認識についての問題や、われわれの身体における精神と物質の結合についての問題を、ベルクソンの哲学を含め「もう一つの形而上学」は解消することができるのである。

確かに、ベルクソン自身も『物質と記憶』において、わ

れわれの精神だけでなくわれわれの認識している物質的対象の根底にも持続しているものがあるということを示し、精神と物質とを区別した際に生じる、それらの結合あるいは一致であるわれわれの身体やわれわれの精神による実在の認識が理解できなくなるという「二元論の問題」(cf. MM 201-3) を解決することを明示的に目指している。しかし、『創造的進化』だけでなく『物質と記憶』において既に、ベルクソンは、従来の二元論を解体し二元論の問題を解決しようとするだけでなく、新たな二元論を構築しようとしている。とりわけ、『創造的進化』においては、『物質と記憶』で多様な持続しているもののあいだの程度の差異を説明するために用いられている「緊張 (tension)」(MM 226, 236) というのはたらきが、弛緩というはたらきと対立させられており、『物質と記憶』にはない二元論的な側面が示されている。さらに、緊張と弛緩の二元論から、生命とそれとは反対方向の過程としての物質性との二元論が展開される。

この二元論は、「もう一つの形而上学」において解消されたと考えられている問題に再びとらわれることにはなっていないのだろうか。何ゆえ、ベルクソンは、二元論を解体した後、二元論を再構築しようとするのか。そして、とりわけ生命と物質性の二元論は、いかなる意義をもっているのか。本発表では、『創造的進化』第3章において当の二元論がいかにして構築されているのかを解明し、さらに *Le bergsonisme* におけるドゥルーズによるベルクソン解釈と比較および検討しながら、以上のような問いに対する答えを探究する。

[文献表]

- Bergson, Henri. 2008 [1896]. *Matière et mémoire*, Puf. (=MM)
- . 2009 [1907]. *L'évolution créatrice*, Puf. (=EC)
- Deleuze, Gilles. 2008 [1966]. *Le bergsonisme*, Puf.
- Montebello, Pierre. 2003. *L'autre métaphysique, Essai sur la philosophie de la nature : Ravaisson, Tarde, Nietzsche et Bergson*, Desclée de Brouwer.
- 鈴木泉. 2008. 「形而上学」の死と再生——近代形而上学の成立とその遺産」, 『岩波講座 哲学 2 形而上学の現在』, 岩波書店, 49-73.
- 檜垣立哉. 2000. 『ベルクソンの哲学 生成する実在の肯定』, 勁草書房.